



「思い出のランドセルギフト」 2021 年秋配付のご報告

2022 年 2 月

女性・選択できる世界を。

JOICFP

■アフガニスタンの女の子が置かれた状況

アフガニスタンでは、長く続いた紛争などにより多くの学校が被害を受けました。その上、近年のタリバン、IS などの武装勢力の拡大により、テロ活動が活発になり、未だ紛争が絶えません。数年前まで学校があった地域ですら今は多くの子どもたちが校舎のない青空教室で学んでいます。また、ランドセルを配付しているアフガニスタン東部のナンガハール州では、州内の小学校の 70 % で校舎や黒板、青空教室で敷きものとして使用している「ござ」といった学校運営に必要な備品が不足しています。（*ナンガハール州教育局調査より）

紛争や貧困が原因で学校に通えない子どもたちも多くいます。特に女の子は、貧困のために水汲みや農作業などの手伝いを期待されるために、就学できなかったり、学校を中退してしまったりということも少なくありません。また、女性教師の不足や通学路が安全でないこと、学校に女子用トイレがないといった、女の子が安心して通える環境が整っていないということも背景にあります。



紛争の爪痕が残る学校の窓



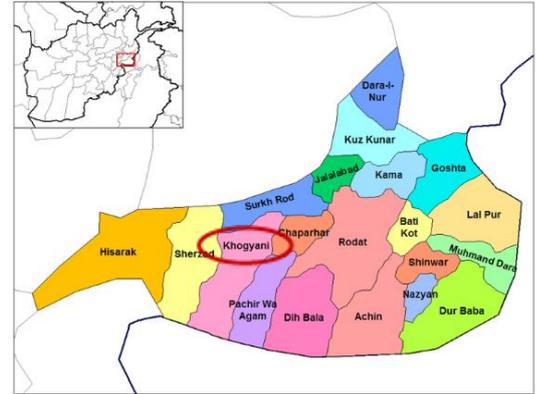
青空教室

「世界子供白書 2021」によれば、アフガニスタンでは、4 割の女の子しか小学校を修了していません。貧しい上に、教育は女の子にも重要であることが、家族や地域に十分に理解されていないことが理由です。また、女の子は、早い場合で 12～13 歳で結婚させられ、母体が十分に発達していない 10 代前半から出産、その後何度も出産を繰り返すことにより、命を落とすこともあります。女の子が教育を受けることができると、保健・衛生・栄養等の知識をしっかりと身につけることができ、将来、自分と家族の健康を守ることができるようになります。

この取り組みによって、色鮮やかなランドセルを背負い、男の子たちと同じように満面の笑顔で学校に通う女の子たちの姿が、親の女子教育に対する消極的な意識を変えることにもつながっています。

■配付地域について

今回ランドセルを配付した地域は、パキスタンとの国境に接するアフガニスタン、ナンガハール州南部に位置するコギャニ郡です。この地域は 20 年間、タリバンと米軍の戦闘が続いていたため、米軍により立ち入りが禁止されていました。2021 年 8 月の政変により、タリバンが政権を取ったことで、この地域の戦闘は終結し、現在は入ることができます。立ち入りが禁止された当時のデータでは 146,852 人の人々が住んでいるとされています。郡の中心部はカザ村で、郡行政の拠点や地方裁判所、郡病院、その他の政府機関があります。



またコギャニ郡は、恵まれた天候により、桃やクルミやアーモンド、またぶどうといった高品質な果物でも有名です。しかし、これまで武装勢力の拠点でもあったため、麻薬の原料であるケシの生産量がナンガハール州で最も多いという問題も抱えています。

昨今のコギャニ郡は、20 年の長い戦争と干ばつの影響を受けています。人々は困窮しており、人々は命を守るために緊急の人道援助を必要としています。人道危機に直面しているのはコギャニ郡だけでなく、これはナンガハール州のすべての地域とアフガニスタンの他の場所でも同じ状況です。



■コギャニ郡の教育環境について

コギャニ郡には、73 校の小学校・中学校・高校・宗教学校があり、女子 14,465 人、男子 27,426 人、合計 69,319 人の生徒が学んでいます。男性教師の数 965 人に対し女性教師は 38 人しかいません。子どもたちが学び続けるために 180 人の男性教師と 140 人の女性教師を新たに必要とされています。

73 校のうち、54 校は校舎がありますが、教室が足りず、校舎の外で学ぶ子どもも多くいます。19 校は校舎のない青空教室で、夏場の強い日差しや雨、砂ぼこりを防ぐことができない劣悪な環境の中で学んでいます。また 23 校には周囲に壁がなく、40 校にはきれいな飲料水を飲める環境がありません。



45 校の学校のトイレは、男女で分けられていない上に、使用に適した衛生的なトイレではありません。女の子たちは男女共用でトイレを使用するか、特に高学年の女の子はトイレのために家に帰るのが現状です。低学年の女の子は、屋外でトイレを済ませることもあります。また、これら 45 校の学校は、トイレの使用後に手を洗うための手洗い場がありません。

■ランドセルの配付について

アフガン医療連合センター、教育省との話し合いにより、配付地域、対象の学校を選定し、様々な機関と連携して配付を行いました。今回は、コギャニ郡の学校 73 校のうち 27 校の生徒へ 7,044 個の日本のランドセルと学用品を配付し、これを通じて子ども達とその家族へ、手洗いに関する指導とリーフレットの配付を行いました。



実際の統計によると、この地域には 1 年生から 3 年生までの生徒が 35,467 人いるとされており、今回の配付では同地区 73 校のうちの 20%の生徒へ配付することができている状況です。ランドセルと一緒に寄贈された学用品を均等に分け、一人につき、ノート 2 冊、鉛筆 5 本、消しゴムや鉛筆削り、色鉛筆などの学用品などをランドセルとセットにして渡しました。



ランドセルの配付と手洗いに関する情報を伝えています

配付期間:2021 年 10 月 6 日～10 月 30 日(2021 年 1 月～2021 年 7 月回収分)

配付個数:7,044 個

配付対象:ナンガハール州、コギャニ郡の学校 27 校の小学校、中学校、高校、宗教学校に通う
小学 1 年生～3 年生(*1)

配付実施団体:アフガン医療連合センター(UMCA)

(*1)この地域は、学校が小学校から中学校、もしくは高校まで一緒になっている場合が多いため、名称は High school(高校)、Middle school(中学校)と付けられている。いずれの場合も、配付対象は小学生 1～3 年生。

■今回の成果

- ◆ 7,044 人の子どもたちへ文房具の入ったランドセルを贈ることができました。
- ◆ 7,044 世帯が寄付を通じて支援され、生活や教育の環境を改善できる可能性があります。
- ◆ 農村部に暮らす 7,044 人の子どもたちは、ランドセルや学用品の寄付を通じて、学校に行く支援を受けることができたため、学校へ行く活力を得られました。
- ◆ 7,044 人の子どもたちは、ランドセルを使用することで、教科書や学用品を安全に学校へ持って行くことができるようになりました。
- ◆ 年間で 10%の退学率を減らすことができました。

今回、コギャニ郡で実施されたプロジェクトを終え、配付開始からこれまでの 16 年間で、**24 万 7,404 個**のランドセルを配付することができました。

■配付地域からのメッセージ

シッド・ダウド・シャキールさん——コギャニ郡教育局長

アフガニスタンのコギャニ郡教育局を代表して、アフガニスタン医療連合センターチームの一生懸命な取り組みに感謝しています。また、日本の皆様からのランドセルと文房具の寄付にとっても感謝しています。今回は、他の援助機関の支援が全く入っていなかったコギャニ郡の遠隔地の学校でランドセルが配付されました。このランドセル寄付プログラムは、新しい世代である子どもたちの将来をポジティブに変えることができると思います。この寄付は、戦争で荒廃した地区で教育を受ける何千人もの学生の顔に笑顔をもたらしました。私たちは、今後もあらゆる人道支援とプロジェクトを歓迎し、受け入れ、スムーズな活動を促進することに尽力します。

ランドセルを受け取った子ども達と先生からのメッセージ

シャジアさん (小学2年生)

私はランドセルをもらえてとても嬉しいです。鉛筆とノート、そして文房具が入っていました！私は入学した時から、バッグを持っていなくて、教科書を入れるのにレジ袋を使っていたんです。だからいくつか教科書や鉛筆もなくしちゃっています。私の日本のお友達、ありがとう。



ヒナさん (小学2年生)

ありがとうございます！私のランドセルはとっても素敵です。私のパパもママも、姉妹や弟もきっと気に入ってくれると思います。私の教科書全部と、ノート、パン、水筒、そしてガッティ(5つの石で女の子が遊ぶゲーム)を入れようと思います。私は将来、私の学校で先生になりたいです！



グル・ムハンマドさん——ボランティア教師

私はこの学校の教師であることをとても誇りに思っています、そして私は何年もの間、新しい世代の明るい未来のために尽力してきましたこの学校は、化学の教師を探していましたが、そのような人材もないどころか、この学校があるような遠隔地で働くことに興味を持つ人すらいませんでした。しかし、そのような状況でも私は是非やりたいと思い、熱い熱意もってこの仕事に就きました。



この学校は IS に占拠され、戦場となりました。IS は数ヶ月間の間にこの地域を破壊し、住民は戦闘に巻き込まれ命を落としました。アフガニスタン国軍は IS に対する作戦を開始、最終的に IS はコギヤニ郡から退去しました。IS がこの村を攻撃している間に村人、特に女性や子どものほとんどが他の国や地域へ避難し、今この学校では、男の子だけが通っています。避難をした村人達はまだ平和が戻っていることが信じられず、戻って来ていません。そのような理由で、この学校には女の子の生徒がおらず、この学校に女の子を入学させようと思う村人もいないのです。

今回のランドセルの配付は、子どもを持つ親たちが平和になった自分の村に戻ってきて、彼らが以前と同じ日常生活を始めることを励ますきっかけとなるでしょう。みなさんの援助と熱心な取り組みに感謝しています。

■フォトギャラリー

